

市政調査会(各区調査)報告

市政調査会では、広大な市域を有する奥州市の均衡ある発展を推進するため、各区の問題点を明確化させるとともに、議会としての共通認識のもとに、その解決に向けた方向性を導き出すことを目的に、5つのグループに分かれ、各区の状況を調査、検討することになりました。

具体的な内容は？

- ①各区の施設の視察
- ②各総合支所の行政執行状況について
- ③公共的団体との意見交換会

☆グループ編成 ◎グループ長 ○副グループ長

A【教育系】	◎佐藤 克夫○三宅 正克・千葉 正文・小野寺 重・藤田 慶則 亀梨 恒男・千田美津子・廣野 雅昭・渡辺 忠
B【総務系】	◎渡辺 明美○内田 和良・菅原 明・及川 俊行・千葉 悟郎 及川 梅男・小沢 昌記・数江與志元
C【福祉系】	◎関 笙子○石川 和好・佐々木國男・佐藤 邦夫・菅野 市夫 佐藤 修孝・安部 皓三・高橋 瑞男
D【産業系】	◎佐藤 建樹○中西 秀俊・菅原 哲・郷右近 浩・菅原今朝男 菊池 嘉穂・安倍 静夫・小野 幸宣
E【建設・まちづくり系】	◎高橋 勝司○今野 裕文・阿部加代子・中澤 俊明・佐藤 絢哉 遠藤 敏・新田 久治・及川 善男

公共施設視察状況

A グループ IN 江刺区

教育系

- 木細工小学校
- 田原中学校
- 稲瀬わかば園

児童数18名の木細工小学校は、詩と作文で数々の賞を受賞する等、特徴ある教育活動を展開。田原中学校は胆江で唯一の1・2年複式学級だが問題行動等は一切ない。稲瀬わかば園は開園して3年目、教育委員会サイドと福祉サイドの調整が今後の課題。



市立木細工小学校ホール

行政執行状況等説明及び懇談会

教育の現状として、学校数が多く老朽化していること。特別支援教育は知的・情緒等5校で実施しており通級児童は増えたが先生が減っている。免許外の許可により田原中が対応。長期欠席者は17年度で小学校2名、中学校35名。多数の郷土芸能があり、郷土芸能保存会は56団体、神楽保存会20団体、鹿踊り15団体。小・中学校16校中15校が郷土芸能に取り組んでいる。スポーツ振興は、市として一体感を醸成する事業の実施や同種のイベントや施設をどう調整するかが課題。

公共的団体等との懇談会

P.T.Aからは、中学校での服装の乱れや問題行動が多く、家庭に居場所がない子どもが多いこと。また問題行動への対応としてスクールカウンセラー等の配置が必要との要望が出されました。ことばの教室親の会からは、岩谷堂小学校のことばの教室が1学級に減らされた事など、特別支援教育の現状と問題点が話されました。会ではこれらについて、昨年7月に市長や教育長・県振興局に要望したとのことでしたが、特別支援教育の充実とはとりわけ重要であると感じました。

公共施設視察状況

B グループ IN 前沢区

総務系

- 「一般廃棄物最終処分場」建設予定地
- 「牛の博物館」
- 「前沢駅東地区の宅地造成等の進捗状況」

最終処分場10haの予定地までは、前沢支所からバスで7〜8分の所であり、衣川区との境界地でありました。牛の博物館は、牛をテーマとした博物館としては世界唯一のもの。駅東地区の開発は、宅地申込のあるほど期待される状況。



牛の博物館にて

行政執行状況等説明及び懇談会

前沢地区の小学校7校を統合し、新校舎を建設する計画案は、平成16年度から保護者・地域・学校の代表者で話し合われて来た。特に白山小学校の校舎老朽化と各学校の入学生の減少で、平成17年度の途中で「小学校7校の統合化」の方向づけがなされた。しかし合併協議会の新市建設計画の中にこの案件が盛り込まれてなかった。それは新校舎建設費が高額で、合併の際の前沢町の基金持ち出し分との関連で見送られたものと思われる。新校舎建設は近々の問題であり、市としては是非早急の建設をお願いしたいものとの説明があった。

公共的団体等との懇談会

各自治区長から自治区の要望書に対する市長の回答書は熱意の感じられないものであった。また、前沢駅東西を結ぶために「アンダーパス（鉄道の下のトンネル化）」の早期実現がほしい。各地域の道路の拡幅・改修をお願いしたい。さらに「ハートバス」と同時に「町民バス」の定期運行を検討してほしい。防災上問題にある箇所の実地調査と消防車・屯所の老朽化対策、「火消し隊」のPR紙の予算減額はしないこと。「議会だより」の発行を公費で行うことの疑問が出された。